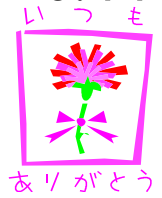


被災地と、みんなを結ぶ

2017年5月19日 No.44

つながろう！絆・連合



発行：連合（総合組織局・連帯活動局）

電話 03-5295-0513 FAX 03-5295-0547 rentai@sv.rengo-net.or.jp

日本労働組合総連合会（連合） <http://www.jtuc-rengo.or.jp/>

「東日本大震災から5年」 被災地の「いま」を伝えるプロジェクト 復興支援視察団 in 岩手 開催

東日本大震災から5年経過した昨年、当時ボランティアに携わった人たちが再び被災地を訪れ、改めて震災と向き合うことをねらいとして実施を予定していた復興支援視察団 in 岩手は、台風10号の影響で開催が延期となっていました。連合岩手、宮古地域協議会のご協力の下、5月15日（月）～16日（火）の日程で開催されました。各構成組織、各地方連合会から15名の参加がありました。

1日目午前は、当時連合ボランティアのベースキャンプとして使わせていただいた「新里高齢者コミュニティセンター」を訪問し、佐々木・連合岩手宮古地協事務局長から、当時の苦労話や、思い出、そして災害時に備えることの大切さについて説明をしていただきました。



宮古市新里高齢者コミュニティセンターにて。当時ここを拠点としていた参加者の方が2人おられました。



当時宿泊場所となった体育館。ボランティアの人たちの生活確保のためにさまざまな苦労があったそうです。

1日目の午後は、当時ボランティア派遣に当たって連携した宮古市社会福祉協議会を訪問しました。ここは当時ボランティアセンターが置かれたところで、ここから毎日の活動が始まりました。



宮古市社会福祉協議会にて。当時もお世話になった葛・事務局長から、現状についてご報告いただきました。



ボランティアセンター開設時に使用していた仮設の事務所。災害に備え、今でも使える状態に保たれています。

1日目夕方には、その宮古市社会福祉協議会、連合が推薦する岩手県議会議員、宮古市議会議員の皆さまをお招きして、当時の様子や現状、課題について講演をしていただきました。

2日目は、被災して保存されることとなった「たろう観光ホテル」や、津波によって破壊された防潮堤跡が残る田老地区を訪問して、地元の観光協会の方からの説明をいただきました。また、盛岡までの帰路の道中、台風10号の爪痕が残る岩泉町小本地区を通り、被害規模が甚大だったことを目の当たりにしました。震災に向き合い、被災地に寄り添っていく決意を新たにし、そして、備えることの大切さを改めて認識させられた視察となりました。



宮古市社協、県議、市議を招いての講演会。皆さんも被災をされていて、リアルな内容の講演を頂きました。



復興が進む田老地区。この防潮堤を越えて津波は街を襲いました。これよりも高い防潮堤が建設中でした。



↑台風10号の爪痕が残る岩泉町小本地区。流木が至る所で散乱しており、被害の大きさを物語っていました。

←津波で二階部分までが流されてしまった「たろう観光ホテル」。震災遺構として保存されていくそうです。

復興支援視察団 in 岩手 日程

5月15日(月)

- ・元連合ボランティアセンター訪問 (新里高齢者コミュニティーセンター)
- ・元宮古ボランティアセンター訪問 (宮古市社会福祉協議会)
- ・宮古市内視察(鎌ヶ崎、津軽石、宮古市街地)
- ・講演会

宮古市社会福祉協議会 有原 領一さん

岩手県議会議員 伊藤 勢至さん

宮古市議会議員 竹花 邦彦さん

5月16日(火)

- ・田老地区(学ぶ防災)視察
- ・岩泉町小本地区視察

本ニュースは、全国の皆さんの声をベースに発行しています。「こんな取り組みしているよ」「今、現地はこうなっている」などの声や写真を是非お寄せください。皆さまからの投稿お待ちしております！

●連合・連帯活動局

TEL：03-5295-0513

FAX：03-5295-0547

メール：

rentai@sv.rengo-net.or.jp